

1.長期成長ビジョン

無限の新分野に種をまき、結実した「成果」を収穫し続けることで、多様な「みえる」喜びを創造できる社会の実現を目指す

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

「種子」に因んだ社名を持つ当社は、無限の新分野に種をまき、結実した「成果」を収穫し続けることで、多様な「みえる」喜びを創造できる社会の実現を目指す

- お客様の「みえる」に関するニーズに応え、多様なソリューションと附加価値を提供
- 「ジャパンクオリティ」に誇りを持ち、すべての製品を高品質かつ安定的に供給
- 既存技術の継承と新技術の探求、専門スキルの研鑽により、**自らを高め続ける**
- ステークホルダーとの多様な接点**を生み出し、対話を通じた満足度の向上と信頼構築に努める

会社全体の売上成長目標（～31年）

- 売上高成長率6.0%
- 売上高増加額151億円

会社全体の賃上げ目標

- 3.8%（直近事業年度～基準年度）
- 5.5%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

- 国内のコンタクトレンズ市場は近視人口の増加による市場の拡大が続いている、**2030年頃までは成長を続ける見通し**である
- 海外のコンタクトレンズ市場も成長を続けており、**特に東南アジアなど経済成長率の高い地域での市場拡大**が見込まれる
- 円安の状況下では、国内製造品を輸出するメリットが大きく、**今後の輸出拡大にチャンス**がある
- 近視進行抑制効果などコンタクトレンズに**新たな価値を付加**することで需要の拡大が見込まれる

内発的動機

- 世界市場はメーカー出荷額ベースで約1兆円以上と見られ、その中で市場に影響力を持ち、変化の速い市場で生き残るには業容の拡大が必要
- 中長期的には**連結売上高500億円**を目指す
- アジアにおいても、月産1億枚程度の製造力が標準となっている状況から、当社も設備の増設を行い**世界で戦うための生産能力**を有する必要がある
- アフターコロナの需要増加に対して当社の**商品供給力（生産能力）が不足**しており、国内外の受注に対してバックオーダーでの対応をせざるを得ない状況から、**機会損失が発生**している

2.補助事業の概要

国内外市場での高成長を実現するため、鴻巣研究所4号棟の建設による生産能力拡張と共に、省人化設備の導入による生産性向上と3号棟にて新素材商品の生産開始による売上増加を目指す

補助事業の背景・目的

- 需要が供給を上回る状況が継続しており、国内外の販売機会損失が発生
- 顧客ニーズの多様化とコスト高・人手不足等の外部圧力

事業費
(補助額)127億円
(41億円)

設備投資の内容

鴻巣研究所4号棟の建設による生産能力増強

【具体的な投資内容】

- ① コンタクトレンズ製造工場建設：159.4億円（補助金対象外）**
生産能力が約1400万枚/月増加
- ② コンタクトレンズ製造設備導入：130億円（補助金対象）**
生産能力が約1000万枚/月増加、省人化による生産性向上と新素材商品による売上向上

【補助事業により見込まれる効果】

- 生産能力増・顧客ニーズへの対応強化に伴う販売増による**売上増**
(30年度までに**50%増**を見込む)
- 生産性向上に伴う原価低減による**利益率向上**
(全社粗利益率**+6%の改善**)



目標値

項目	2027年度 (基準年度)		2030年度 (基準年度 + 3年後)	
	埼玉	東京	埼玉	東京
労働生産性 (単位：万円/人)	1,190万円/人		1,385万円/人 (年平均上昇率 + 5.2%)	
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	502万円/人	567万円/人	589万円/人 (年平均上昇率 + 5.5%)	666万円/人 (年平均上昇率 + 5.5%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	716万円/人	716万円/人	828万円/人 (年平均上昇率 + 5.0%)	828万円/人 (年平均上昇率 + 5.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	829人	341人	864人	341人